

テーマ：消費者物価（全国7月、東京都区部8月） 発表日：2007年8月31日（金）
 ～ 東京都区部で若干改善 ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信用料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信用料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
06	1月	▲0.1	▲0.1	▲0.7	11.0	▲7.3	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.6	▲7.3
	2月	▲0.1	0.0	▲0.5	13.5	▲7.3	▲0.3	▲0.2	▲0.5	11.7	▲7.3
	3月	▲0.2	0.1	▲0.5	14.0	▲7.3	▲0.4	▲0.1	▲0.3	11.8	▲7.3
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.6	9.3	▲7.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3	6.9	▲7.3
	5月	0.1	0.0	▲0.5	11.3	▲6.6	0.0	▲0.1	▲0.2	9.7	▲6.6
	6月	0.5	0.2	▲0.4	12.3	▲6.6	0.3	0.0	▲0.3	11.3	▲6.6
	7月	0.3	0.2	▲0.3	11.3	▲6.6	0.2	0.0	▲0.1	10.9	▲6.6
	8月	0.9	0.3	▲0.4	13.2	▲6.6	0.8	0.0	▲0.2	13.3	▲6.6
	9月	0.6	0.2	▲0.5	11.5	▲6.6	0.5	0.0	▲0.3	11.5	▲6.6
	10月	0.4	0.1	▲0.4	9.0	▲6.6	0.4	0.1	▲0.1	8.2	▲6.6
	11月	0.3	0.2	▲0.2	5.9	▲0.3	0.2	0.2	0.0	4.7	▲0.3
	12月	0.3	0.1	▲0.3	5.3	▲0.3	0.3	0.2	0.0	4.1	▲0.3
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲4.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1
	5月	0.0	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1	0.0	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.1
	6月	▲0.2	▲0.1	▲0.4	1.4	▲4.1	▲0.2	▲0.1	▲0.3	2.5	▲4.1
	7月	0.0	▲0.1	▲0.5	2.1	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	3.1	▲4.1
	8月	—	—	—	—	—	▲0.2	0.0	▲0.2	0.7	▲4.1

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 6ヵ月連続で前年比マイナス

7月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.1%と前月から変わらず、コンセンサス（同▲0.1%、レンジ▲0.2%～0.0%）通りとなった。また、8月東京都区部（生鮮食品除く）は前年比0.0%と、コンセンサス（同▲0.1%、レンジ▲0.2%～0.0%）を若干上回った。

全国消費者物価コアは6ヵ月連続の前年割れとなった。石油製品がガソリン価格の値上げを背景に前年比+2.1%（6月同+1.4%、CPIコアへの寄与度：6月0.06%pt→7月+0.09%pt）と2ヵ月連続でプラスになったことや、6月に一時的に下落したパック旅行がゼロに戻ったこと（寄与度：6月▲0.02%pt→7月0.00%pt）といったプラス要因もあったが、昨年7月に行われた値上げの影響一巡によりたばこのプラス寄与が剥落（寄与度：6月+0.06%pt→7月0.00%pt）したことがそれを打ち消した。なお、特殊要因除くコアのマイナス幅は縮小（寄与度：6月▲0.19%pt→7月▲0.16%pt）したが、依然として低迷状態が続いていることには変わらない。

※ここでは、米類、電気代・都市ガス、石油製品、保険医療サービス、固定電話通信用料、移動電話通信用料、たばこを特殊要因としている。

○ 東京都区部はやや改善

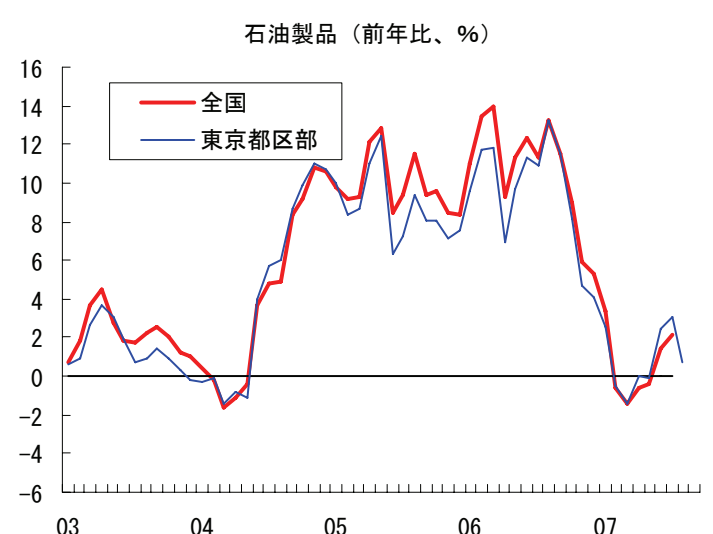
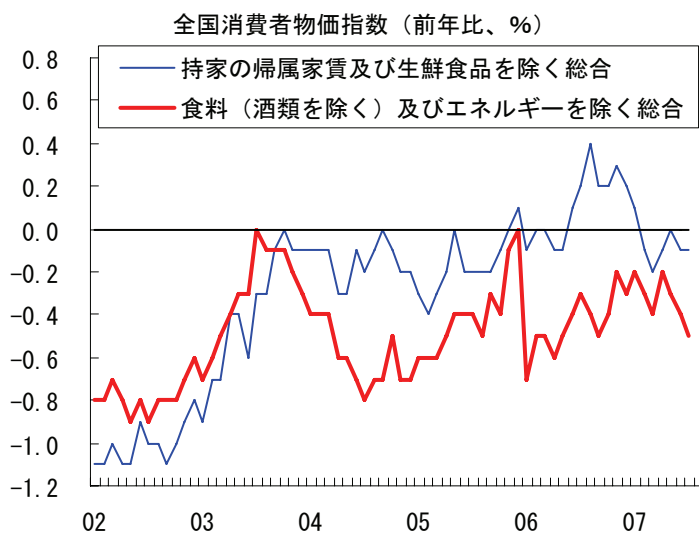
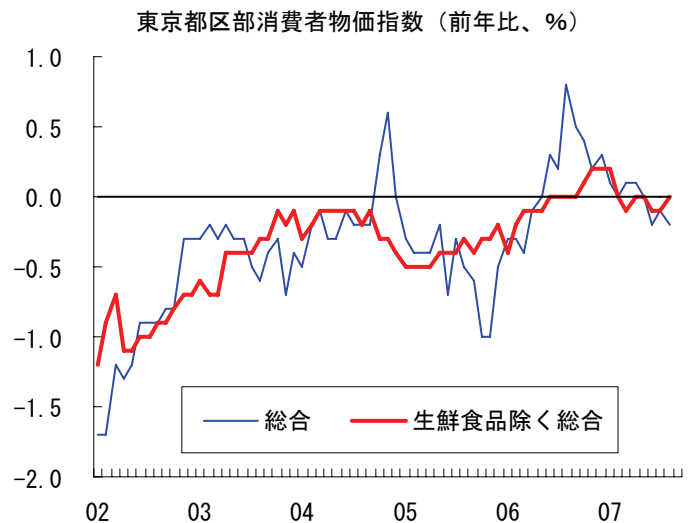
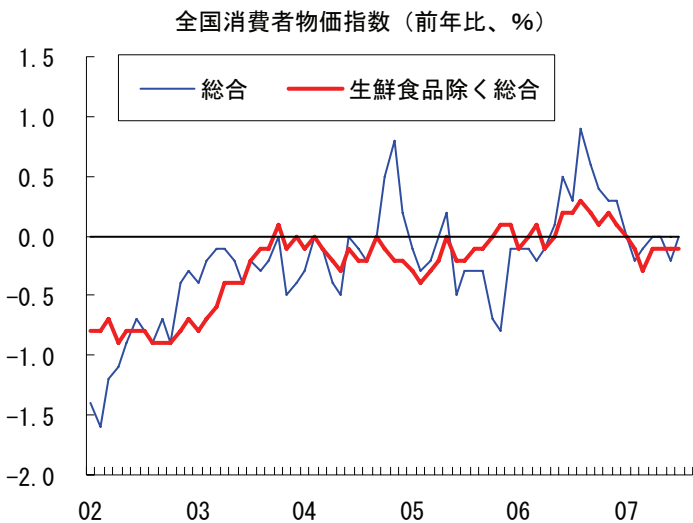
8月の東京都区部消費者物価指数は前年比0.0%と、前月（同▲0.1%）から若干改善した。石油製品価格が前年比+0.7%（7月同+3.1%）と、前年の裏が出る形でプラス幅を縮小させた一方で、特殊要因除

くコアのマイナス幅が比較的大きく縮小（寄与度：7月▲0.13%pt→8月▲0.01%pt）したことが影響した。特に、パック旅行や宿泊料などの教養娯楽サービスや、食料品（生鮮食品除く）のプラス寄与拡大が寄与している。なお、傷害保険料についてはマイナスに寄与すると筆者は予想していたが、実際にはむしろプラス寄与となった。

○ 8月の全国CPIはゼロ%の可能性も

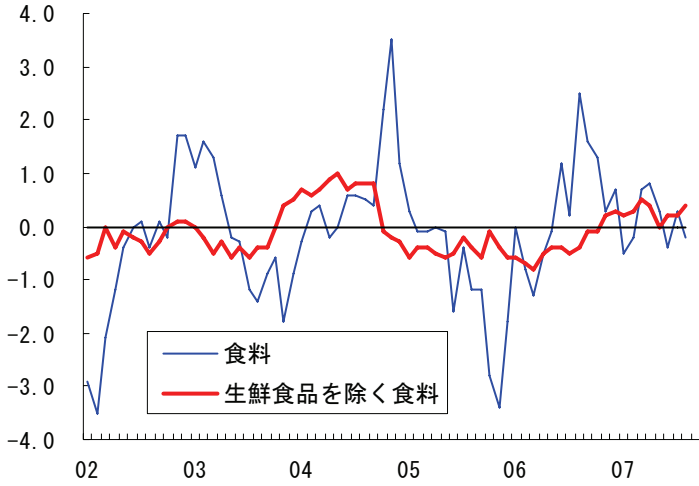
東京都区部の動向から試算すると、8月の全国消費者物価指数（コア）は前年比0.0%と、2007年1月以来のマイナス圏脱出となる可能性がある。石油製品のプラス寄与が縮小（7月+0.09%pt→8月+0.01%pt）するものの、食料品価格が上昇することに加え、パック旅行（7月0.00%pt→8月+0.03%pt）や宿泊料（7月0.00%pt→8月+0.01%pt）などが押し上げ要因になる。また、足元でマイナスが続いている持家の帰属家賃も、前年の裏が出ることからマイナス幅が縮小しそうだ。

マイナス圏脱出の可能性とはいっても所詮はゼロであり、物価の基調が弱いことには変わらない。ただし、値上げ報道が増加し、実際に物価上昇品目も増えてくるなど、物価を取り巻く環境に若干変化の兆しがみられていることもまた事実である。少なくとも、物価が今後マイナス幅を拡大させていく可能性は小さくなっていると思われる。消費者物価コアは11月頃にはプラスに転じてくる可能性があるだろう。その後は、極めて緩やかなペースで上昇していくと予想される。

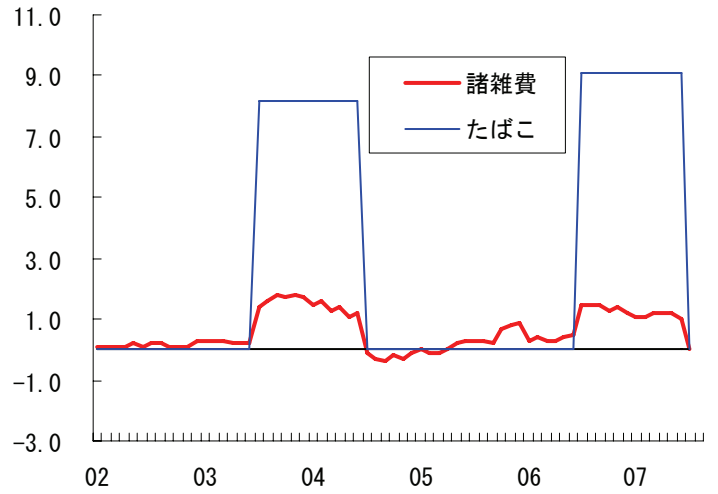


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

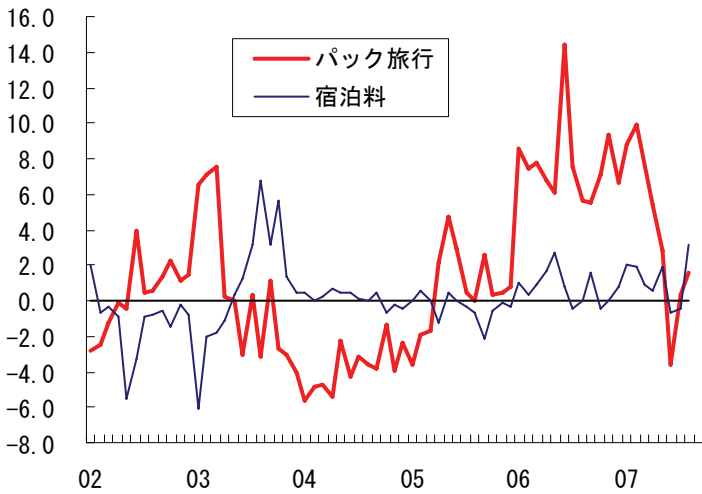
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



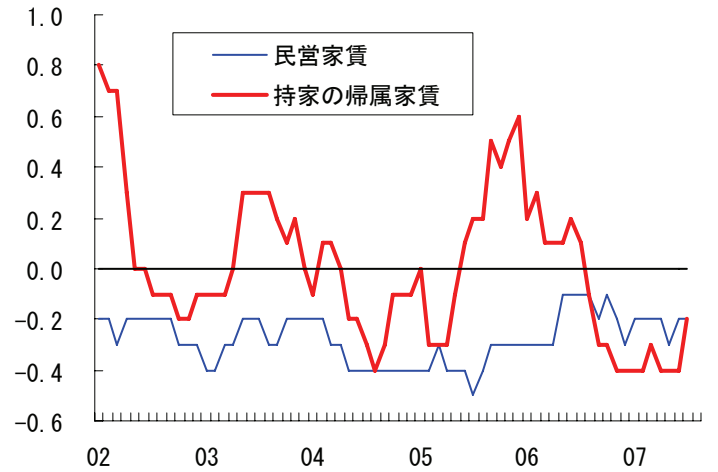
全国消費者物価指数（前年比、%）



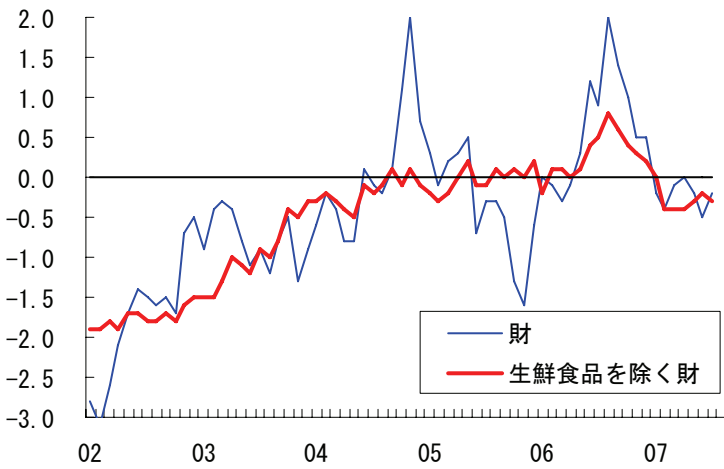
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



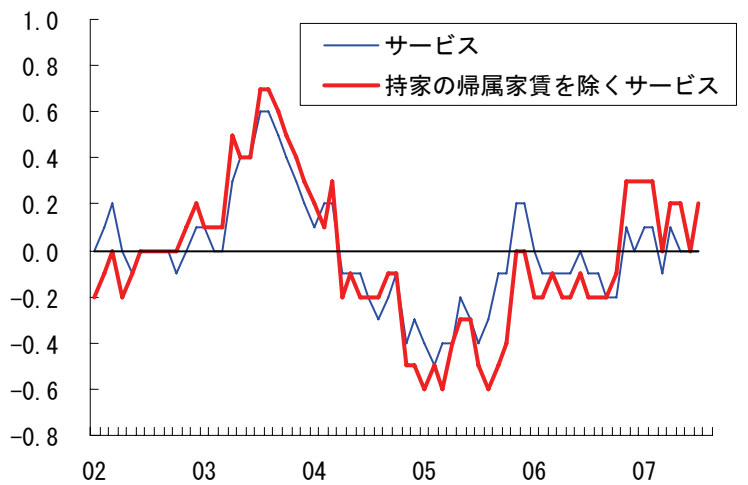
全国消費者物価指数（前年比、%）



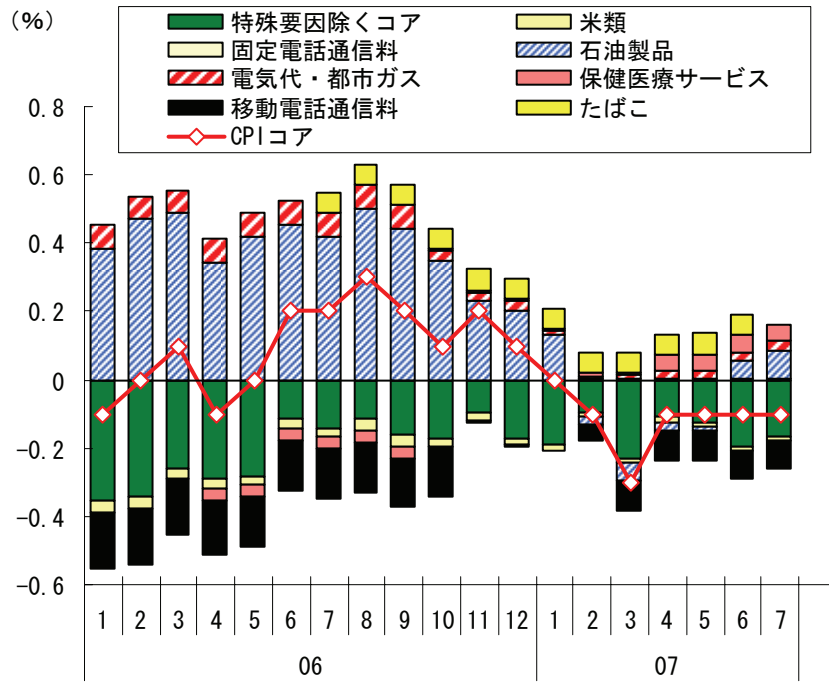
全国消費者物価指数（前年比、%）



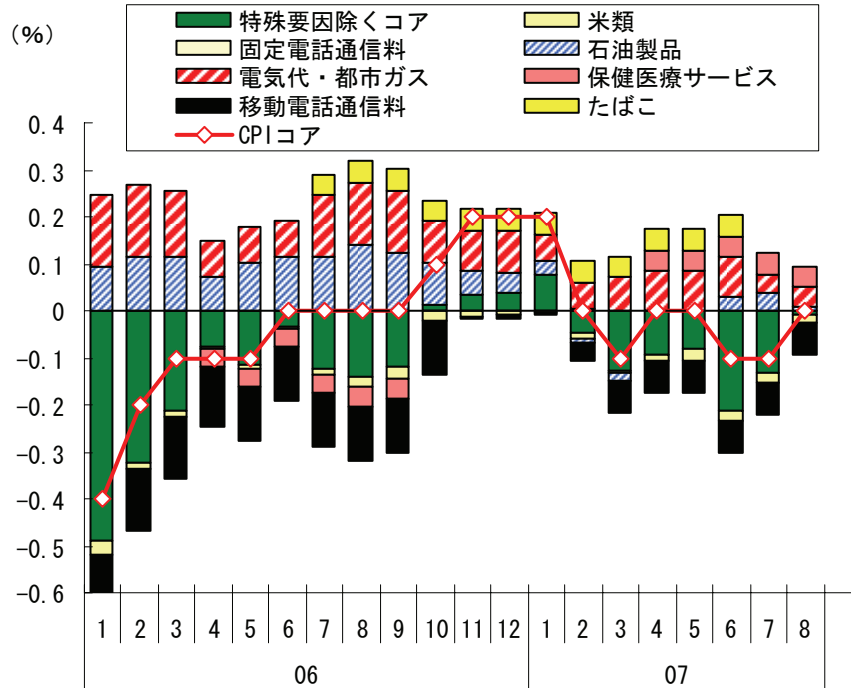
全国消費者物価指数（前年比、%）



全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比



グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」